

令和元年6月20日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03817

研究課題名(和文) ネットワークと制度からみる市場メカニズムとイノベーションの研究

研究課題名(英文) Market and innovation from networks and institutions

研究代表者

中野 勉 (NAKANO, Tsutomu)

青山学院大学・国際マネジメント研究科・教授

研究者番号：10411795

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ネットワークと制度が複雑に絡み合うことでイノベーションを生み出す市場のメカニズムに関して、その理論化と実証について考察を深めることを目的とした。組織フィールドとして、オーディオ産業、エシカル・ファッションなどの「創造的な産業」を実証の対象とし、その方法は、諸概念を統合的に応用し、ネットワーク分析による産業レベルでのマクロからの関係性の構造分析を行う一方で、その内容に関して、フィールドワークを含めたマイクロ・レベルでのコミュニケーションの分析を行った。実践的な評価と市場のメカニズムとしてのネットワークと制度化について、イノベーションとコミュニケーション戦略の重要性が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の意義として、可視化とフィールドワークのトライアングレーションの方法論により、ネットワーク分析、現象学、認知論、制度論などの諸概念を多角的に応用することで、様々な絡み合う組織間、組織内、組織フィールドにおける複雑なネットワークの関係性の社会構造が市場を形成していることが明らかとなった。そして、その制度化は、多様なグループのアクターが現場において共創することで、多様な文化のぶつかり合いが生まれ、クリエイティブ・インダストリーにおけるダイナミックな市場のメカニズムとして、「創造的な摩擦」からイノベーションを創出する重要な要素であると実証から示唆された点に大きな貢献がある。

研究成果の概要(英文)：The objective of this research project was to study markets and their innovation mechanisms from the point of view of organizational networks and institutions. As an empirical investigation, it focused on creative industries including the high-end audio equipment market where different cultural orientations overlap to create tension over technological platforms of analog and digital as for innovations. Players found values from their pragmatic approaches to valuation of objects whereas different stakeholders interact in the dynamics of technological innovations. This study showed that actors through the micro interactions in the networks created institutions in the complex web as markets where different stakes of players negotiate to promote the identified values as part of market mechanisms.

研究分野：経済社会学

キーワード：イノベーション ネットワーク 制度 市場 コミュニケーション 企業戦略 多様性 創造的な摩擦

1. 研究開始当初の背景

- (1) 本研究に関連する国内・国外の研究動向と背景は、以下の通りであった。研究代表者は、組織社会学、経済社会学、ネットワーク分析を専門領域とする。米国コロンビア大学社会学部で Ph.D. を取得後、American Sociological Association (ASA; アメリカ社会学会)、Academy of Management (AOM; アメリカ経営学会)、European Group for Organizational Studies (EGOS)、Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE) など、アメリカとヨーロッパのトップの学会を中心に先端研究の動向を追いながら、日本、アメリカとヨーロッパの大学院で企業や組織に関する研究と教育に従事してきた。着想に至った経緯として、代表者は、ネットワーク分析を応用した市場、制度と文化、イノベーションなどに焦点を当てた研究を発展的に進め、実証分析と理論化に取り組んできた。例えば、2010 - 12年の科学研究費での研究では、ネットワークの構造と文化がダイナミックに影響し合い、多くの企業を巻き込みながら産業レベルのイノベーションに大きな影響を及ぼすと主張した。また、2013 - 15年の科学研究費での研究「多様性とイノベーションのネットワーク・メカニズム」をまとめる作業を進めていた。
- (2) 本研究と関連する世界の研究動向は、欧米の研究を中心に、いくつかの研究が挙げられる。第1に、「市場の社会学」(sociology of markets) の分野で、ノードの関係性の構造のインプリケーションについて、文化にまで踏み込もうとする革新的な研究 (Beckert 2010; White 1981, 1993, 2002) が存在した。第2に、経済社会学 (economic sociology) は、日本においては研究が非常に遅れているのに対し、欧米の一部では、制度論 (institutionalism) との関連で、市場の概念化に関する斬新な研究が続いている (Callon 1998; Padgett 2001)。しかしながら、これらに対しては誤解や混乱も多く、例えば、代表者が参加した2015年7月にロンドンで行われた SASE の年次大会では、Padgett & Powell の著書に関して、5人のパネリストがその妥当性と一般化について批判を展開するセッションが組まれるなど活発な議論が行われた。第3に、時に異端的な扱いを受けるアクター・ネットワーク理論 (Actor Network Theory; ANT) が、資源従属論 (resource dependence theory) を現象学的な視点から広げ、特定のイベントに関して意見が対立する集団が存在する場合に、保有資産の曖昧さによるアクターの多様な意味解釈が、大きなネットワークを作り出すと考え (Latour 1986, 1988; Law 1999)、社会運動と市場の権力構造の理解を進めた。第4として、ヨーロッパを中心に、これら市場の問題に、価値と評価 (valuation and evaluation) のメカニズムに焦点を当てる先進的な研究が本格化しつつある。「文化資本」(Bourdieu 1986, 1993) についての初期の研究を基に、現象学を応用し、エージェントのインタラクションの中で、個の主観的な認知が、集合レベルでシンボリックに共有され社会に秩序が生まれるという symbolic interactionism や social constructivist の流れを汲むもので、市場が、経済効率を離れ商習慣や規範、伝統により「社会的な現実」として構成されていることを実証から示すものである (Hennion 2004; Berger and Luckmann 1966)。同時に、商品やサービスの価値と評価の多義性の問題が取り残されてきたことを批判し、現象学的な視点から概念化を行い、その評価方法についての提案をした (Callon, Millo, and Muniesa 2007; Aspers and Beckert 2011)。最後に、価値の多様性の社会学 (sociology of worth) 分野において、David Stark (Stark 2009) は、ソーシャル・ネットワークの視点から、認知の多様性と組織化、価値の多義性が生み出す組織の「不協和」がイノベーションを生み出すと考える。代表者は、この斬新な理論を日本に紹介し、応用研究を促すべきであるとの考えから翻訳を行い、『多様性とイノベーション 価値体系のマネジメントと組織のネットワーク・ダイナミズム』(マグロウヒル/日本経済新聞社, 2011) を刊行した。
- (3) これらの動向を参照しながら、代表者の最近の研究の発展としては、2015年には日本証券奨学財団から助成金を得て、「エシカル・ファッション」との関連で、「統合報告」の制度化に関しネットワーク分析からアパレル産業において実証研究を行った。認証機関の影響と企業の消費者とのコミュニケーションに関して、関係性及び認知の視点からその妥当性を検証した。
- (4) 研究の学術的な位置づけは、これらネットワークに関連する「制度ロジック」、現象の認知と解釈、市場の評価原理と企業のコミュニケーション、多様性とイノベーションに関する諸概念を統合的に応用し、「創造的な産業」(Bilton 2007; Caves 2000) おける市場のイノベーションのメカニズムを解明しようと試みる野心的かつ斬新なものである。「創造的な産業」については、ジャズ・ミュージシャンにとってのソーシャル・ネットワークの重要さの古典研究 (Becker 1982)、企業のコミュニケーション戦略に関しては、アート・オークションやアパレルのステータス・マーケットについての実証研究 (Velthuis 2005; Aspers 2006, 2010) があるが、ネットワークと制度との関連から市場とイノベーションを考察する研究は極めて少なく、本研究は理論、実証、方法の点から先端的な研究であった。

2. 研究の目的

本研究は、ネットワークと制度が複雑に絡み合うことでイノベーションを生み出す市場のメカ

ニズムに関して、その理論化と実証について考察を深めることを目的とする。組織フィールドとして、オーディオ産業、エシカル・ファッションなどの「創造的な産業」を対象とする。方法は、諸概念を統合的に応用し、ネットワーク分析による産業レベルでのマクロからの関係性の構造分析を行う一方で、その内容に関して、フィールドワークを含めたマイクロ・レベルでのディスコース・アナリシスと統計分析により、アフィリエーション・ネットワーク、制度、市場の評価原理、企業のコミュニケーション戦略の分析を行う。期間は3年間を予定しており、研究代表者による単独研究プロジェクトであった。

3. 研究の方法

本研究では、ネットワーク、制度化とイノベーションが作る市場のダイナミクスを、「創造的な産業」として、オーディオ産業及びエシカル・ファッションを中心に研究する。方法は、組織ネットワークからソーシャル・ネットワークに概念を広げ、定量的ネットワーク分析による産業レベルでの関係性の構造分析を行う一方で、その内容について定性的なフィールドワークを行い、制度及び企業のステークホルダーとのシンボリックなコミュニケーション戦略の分析を行った。期間は3年間であり、文献整理、定量及び定性データ収集、分析、理論の再考を順次進めた。

4. 研究成果

本研究は、ネットワークと制度が複雑に絡み合うことでイノベーションを生み出す市場のメカニズムに関して、その理論化と実証について考察を深めることを目的とした。組織フィールドとして、オーディオ産業、エシカル・ファッションなどの「創造的な産業」を実証の対象とし、その方法は、諸概念を統合的に応用し、ネットワーク分析による産業レベルでのマクロからの関係性の構造分析を行う一方で、その内容に関して、フィールドワークを含めたマイクロ・レベルでのコミュニケーションの分析を行った。実践的な評価と市場のメカニズムとしてのネットワークと制度化について、イノベーションとコミュニケーション戦略の重要性が明らかとなった。

本研究は、第1に、市場のメカニズムについて、関係性の視点から斬新な実証研究を行うことで新境地を開くものである。特に、組織とネットワークに関する研究において、既存の研究は単一のネットワークを対象としたものがほとんどであり、複雑な社会構造の関係性を説明するには限界がある。本研究では2部グラフとしてのアフィリエーション・ネットワークを含め、ネットワーク間の相互作用を多重性から捉え、より高次の複雑な分析から新たな知見を提供する。第2に、理論と実証に関して、ネットワークの関係性の構造分析とその内容を多角的かつ統合的に考察するものであり、社会学理論の歴史的な対立軸としての「文化と構造」(culture and structure)の問題に一石を投じる。また、帰納及び演繹的な思考から、論理的な概念化と実証での検証を積み上げ、先端理論と複雑な分析手法を組み合わせた統合的な実証研究として、マネジメントの実務の現場に加え、広く社会科学を啓蒙する点において大きな意味がある。特に、取引における行為の意味(Weber 1968)を考えながら、意味社会学や知識社会学への貢献がある。第3に、「市場の社会学」に関し、実証研究からの積み上げとして、文化が大きな意味をもつ「創造的な産業」における、ステークホルダーのネットワークとその役割を含めた、バリューチェーンにおける価値創造と、市場の評価原理について実践的な価値評価(pragmatic valuation)多くの知見を提供するものである。この分野はヨーロッパを中心に近年大きく発展しつつあり、日本のコンテキストから将来のグローバルな比較研究の可能性を含めて、その先駆けとして大きな意義がある。今後は、多くの研究会や学会で成果の発表を継続しながら、国内外の学術ジャーナルへの投稿、叢書の出版に進む。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4件)

中野勉. 「マイルス・デイヴィスは現れるか ハイエンド・オーディオ市場におけるプラグマティックな価値評価」、『一橋ビジネスレビュー』、2018 Autumn, 66巻2号 Pp. 178-91, 東洋経済 査読なし

Nakano, Tsutomu. "Japan's High-End Audio Equipment Industry in Transition: Pragmatic Valuation of "Hi-Fi" Sound and Valorization through Networks," Pp. 211-34 in Tsutomu Nakano eds. *Japanese Management in Evolution: New Directions, Breaks, and Emerging Practices*. Routledge, UK, 2017 査読あり

中野勉. 「ソーシャル・ネットワークと組織のデザイン」、『経営センサー』、No. 189 Pp. 58-63, 2017, 東レ経営研究所 査読なし

中野勉. 「ハイエンド・オーディオ市場における競争と協調のメカニズム ネットワーク関係性からプラグマティックな価値評価へ」、『トランズアクションズ』、5巻2号 p. 41-48, 2016, 白桃書房 査読あり

〔学会発表〕(計 6 件)

— Nakano, Tsutomu. Paper Presentation, “Digitalization of Culture in the High-End Audio: Imaginative Value and Attachments,” (Co-authored with Christian Frankel and Martin Kornberger.) *2018 SASE Annual Conference*, Doshisha University, Kyoto, June 24, 2018

— Nakano, Tsutomu. Paper Presentation, “What is Market?: Imagination and Attachments in the High-End Audio,” (co-authored with Christian Frankel), *Infrastructures of Consumption, 2018 Interdisciplinary Market Study Workshop*. Copenhagen Business School, Denmark, June 8, 2018

— Nakano, Tsutomu. Paper Presentation, “Co-evolution of Analog and Digital Infrastructures in the High-End Audio Market: Valuation and Valorization of “Hi-Res” Sound,” Sub-theme 63: Thinking Infrastructures, *33rd EGOS Colloquium ‘The Good Organization’* in Copenhagen, Denmark, July 6-8, 2017

— Nakano, Tsutomu. Paper Presentation, “Valorization Mechanisms of Japan’s High-End Audio Market: From Organizational Networks to the Pragmatic Valuation of Sound” (in Japanese), Track 8, Inter-organizational Dynamics, *Annual Meetings of Academic Association for Organizational Science (Soshiki Gakkai)*, Sophia University, Tokyo, October 9, 2016

— 中野勉. 「ハイエンド・オーディオ市場における競争と協調のメカニズム ネットワーク関係性からプラグマティックな価値評価へ」組織学会本大会、2016年9月

— Nakano, Tsutomu. Paper Presentation, “Valuation Practices in Transition: From the Analogue to the Digital High-End Audio,” *4S/EASST 2016 Conference: Science and Technology by Other Means*. Track Title: Valuation practices at the margins, Barcelona, Spain, September 1, 2016

〔図書〕(計 3 件)

— 中野勉. 有斐閣、『ソーシャル・ネットワークとイノベーション戦略 -- 組織からコミュニティのデザインへ』、2017、262

— Nakano, Tsutomu. “Overview and Introduction: Japanese Business and Management in Evolution,” Pp. 3-18 Tsutomu Nakano eds. *Japanese Management in Evolution: New Directions, Breaks, and Emerging Practices*. Routledge, UK, 2017

— 中野勉. 丸善出版、『ネットワーク組織論』、『社会学理論応用辞典』、2017、Pp. 416-7

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「ネットワークと共創」パネル及び司会(セッション・オーガナイザー)2018年 組織学会本大会、2018年9月21日、小樽商科大学

招待講演「ソーシャル・ネットワークの可能性と共創によるビジネスの将来」第16回『若手ビジネス講座』2018年7月9日、日仏会館

Nakano, Tsutomu. Seminar Presentation (in Japanese) 文化社会学研究会 January 31, 2017.

Nakano, Tsutomu. Seminar presentation, "Attachments as Market Mechanism: 'Imaginative Value' in the High-End Audio Market, " *Max Planck Seminar*, Max Planck Institute for the Study of Societies, Cologne, Germany, July 18, 2016

Nakano, Tsutomu. Seminar Presentation, "Advantages of Small Firms in the Age of Digital Economy and Standardization: Evidence from the Global High-End Audio Market and the 'Ethical Fashion' Japan," Seminar Series: *Protecting the Weak*, Interdisciplinary Centre for East Asian Studies (IZO), Goethe University, Frankfurt am Main, Germany, June 22, 2016

Nakano, Tsutomu. Paper Presentation, "Pragmatic Valuation of Sound in the High-End Audio and the Impact of Emerging Digital Infrastructure on the Practice of Music-Sound Tasting," *Workshop on Collaboration on Knowledge Infrastructures and Energy*, A Joint Research Seminar between University of Edinburgh and Copenhagen Business School, Edinburgh, Scotland, June 6, 2016

Nakano, Tsutomu. Seminar Presentation, "What is 'Good' Sound?: Pragmatic Valuation in the High-End Audio," *Market Seminar #3*, IOA, Copenhagen Business School, Denmark, May 30, 2016

Nakano, Tsutomu. Invited seminar presentation, "Pragmatic Valuation in the High-End Audio Industry: Networks and Imaginative Value," Seminar Series *Valeur, Prix et Politique*, Institutions and Historical Dynamics of Economics and Society, University of Cachan-Paris, France. March 24, 2016

6 . 研究組織

研究代表者のみの個人研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。